

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	第5次基本構想基本計画推進委員会運営事業	会計	一般会計	事業No.	70	施策順No.	91-003
		事業種別	政策・その他	予算科目	2-1-9-11-20		
政策	9 市民と共に進める行政経営			課等名	企画課		
施策	91 市民参画による協働の促進	事業期間	開始	19	終了	28	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	第5次基本構想・基本計画					A:十分達成した B:どちらかといえば達成した C:どちらかといえばできてない D:ほとんど達成できていない
		具体的な数値で表すと(対象指標)					
	誰、何に	政策数	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
		施策数	9	9	9	9	9
意図	めざす都市像実現に向けて多様な主体との協働により施策や事務事業の推進がなされる						
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)					目標達成度
		19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標
	推進委員会で庁内の評価結果を妥当とした施策の割合(%) (※補足: 施策単位に行政内部で行った評価が妥当とされた割合を指標とする)	100	100	100	100	—	100
	46の施策で前期基本計画期間の目標値を達成できた施策数(22年度までは目標の達成が見込める施策数)	—	46	46	46	26	46
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】							
基本計画の進行管理として、市民等の参加で市民目線による評価を行い、施策46施策、施策の成果向上に対して貢献度の高かった(低かった)事業事務事業又は施策を支える重点事業等の111事業について評価を実施し、施策については38の施策、事務事業については24の事務事業に対して委員会として提言を行った							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	第5次基本構想・基本計画は、平成19年度～28年度を対象期間として「文化経済自立都市」をめざした施策を展開している。この特徴は、単に行政の執行計画とするのではなく、めざす都市像の実現に向けて、多様な主体がそれぞれの役割を担って取り組んで行く点と、各施策に達成目標を数値として設定して進行管理していく点にある。この事業は、市民等による第5次基本構想基本計画推進委員会を設置し、基本計画(前期・後期)期間の施策等の進捗状況を評価し意見提案を得ることで、市民と協働して基本計画を効果的に推進していく。特に、行政が主体となって展開する施策や事務事業の実績や現状を評価する行政評価は、この委員会で二次評価をすることで評価の精度を高めて行く。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 第5次飯田市基本構想基本計画推進委員会の開催	1 委員会開催回数	1 20回
	2 21年度の施策評価結果及び事務事業実績評価結果について、評価を実施	2(1) 評価を実施した施策数 2(2) 評価を実施した事務事業数	2(1) 46施策 2(2) 102事業
23年度実施計画	1 後期計画策定市民検討会議の開催	1 委員会開催回数	1 3回
	2 22年度の施策評価結果について、評価を実施	2 評価を実施した施策数	2 46施策

3 事業コスト

事業費	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金				
	特定財源 県支出金				
	起債				
	その他				
	一般財源	650	453	637	
計(A)	650	453	637		
正規職員所要時間					
臨時職員等所要時間					
人件費計(B)		0			
トータルコスト A+B		453			

4 事業に対する市民や議会の意見

基本構想基本計画推進委員会にしていえば、これだけ時間をかけて行うシステムはなかなかない。市民が委員として参画する機会があることは有意義である。(推進委員会からの提言)

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市役所と市民による協働のまちづくりが進められること。	施策の成果指標又はムトス指標	協働のまちづくりが進められていると感じている市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	基本構想基本計画推進委員会は、基本計画の進行管理として、市民等の参加で市民目線による評価を行い、提言を得て市政に反映していく仕組みであり、協働による行政運営を具現化するものであり結びつく。		
	後期に向けた課題	引き続き後期基本計画の進行管理について市民目線による評価を行うに当たり、評価方法について改善する必要がある。又、評価する委員も政策施策についてそれぞれの分野で専門的な知識を持った方にも関わってもらい、より充実した取組が必要であると提言がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	限られた時間の中で全ての施策、事務事業の評価を行うことは、困難であるので、施策、施策に貢献した事務事業、貢献度が低かった事務事業など、対象を絞った評価を実施した。		
	後期に向けた課題	評価の方式を検討する必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	進行管理を外部に委託していたが、計画期の途中で委託料を削減した。		
	後期に向けた課題	会議の開催数を、必要最低限で効率よく開催できるような工夫が必要。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市民の視点から第5次基本構想・基本計画の評価を行ってもらい、これを基本計画の進行管理に活かすことは、市として必要である。		
	後期に向けた課題	受益者及び負担者も市民であり適切である。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	主体は市民(第5次基本構想基本計画推進委員会)であり、役割は基本計画(前期・後期)期間の施策等の進捗状況の評価し意見を提案することである。行政は、働きかけとして、推進委員会の委員構成化、推進委員会の運営支援を行った。		
	後期に向けた課題	推進委員会の委員の構成化において、施策のそれぞれの分野で専門的な知識を持った方にも関わってもらい工夫が必要。		
全体を通じて	4年間の振り返り	基本計画の進行管理として、市民等の参加で市民目線による評価を行い、提言を得て市政に反映してきた。特に施策、事務事業、そして、政策施策体系や事務事業の構成要件である成果指標についてのあり方も提言いただくなど、事業の振り返りのみならず、行政評価システムの在り方についても提言をいただいた。		
	後期に向けた課題	推進委員会の委員の構成化において、施策のそれぞれの分野で専門的な知識を持った方にも関わってもらい工夫が必要であり、評価方式のありかたを工夫する必要がある。又、情報公開の面から開催方法に工夫が必要である。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--